



ハケ遺跡第 16・19・20 地点全景



ハケ遺跡第 16 地点トレンチ 1 人物埴輪出土状況



ハケ遺跡埴輪集合写真



ハケ遺跡坏集合

第2章 ハケ遺跡

I ハケ遺跡の立地と環境

ハケ遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎台の東側付け根に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。遺跡の北側は落差2m程度のゆるい斜面を形成し、小支谷が入る。標高は14～16mで、遺跡の範囲は南北360m、東西160m以上ある。宅地開発される遺跡中央に畑が残る。

周辺の遺跡は、舌状台地の北側に旧石器、縄文、古墳～奈良・平安時代、中近世の川崎遺跡が隣接し、台地続きの南東側に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の著名な上福岡貝塚、権現山遺跡がある。

1976年以降、宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、2015年12月現在20ヶ所で調査が行われている。

主たる時代と遺構は縄文時代前期から後期の住居跡、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、近世鍛冶遺構（旧福田屋跡）と、2014年に第16地点の発掘調査で、古墳の周溝から6世紀代の人物埴輪と円筒埴輪多数が出土した。さらに2015年度の調査で6世紀代の円墳3基が新たに確認、検出された。

本遺跡は、かつてハケ遺跡A、ハケ遺跡B、ハケ遺跡Cと呼称していたが、現在はハケ遺跡に統一している。



第3図 ハケ遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第2表 ハケ遺跡調査一覧表

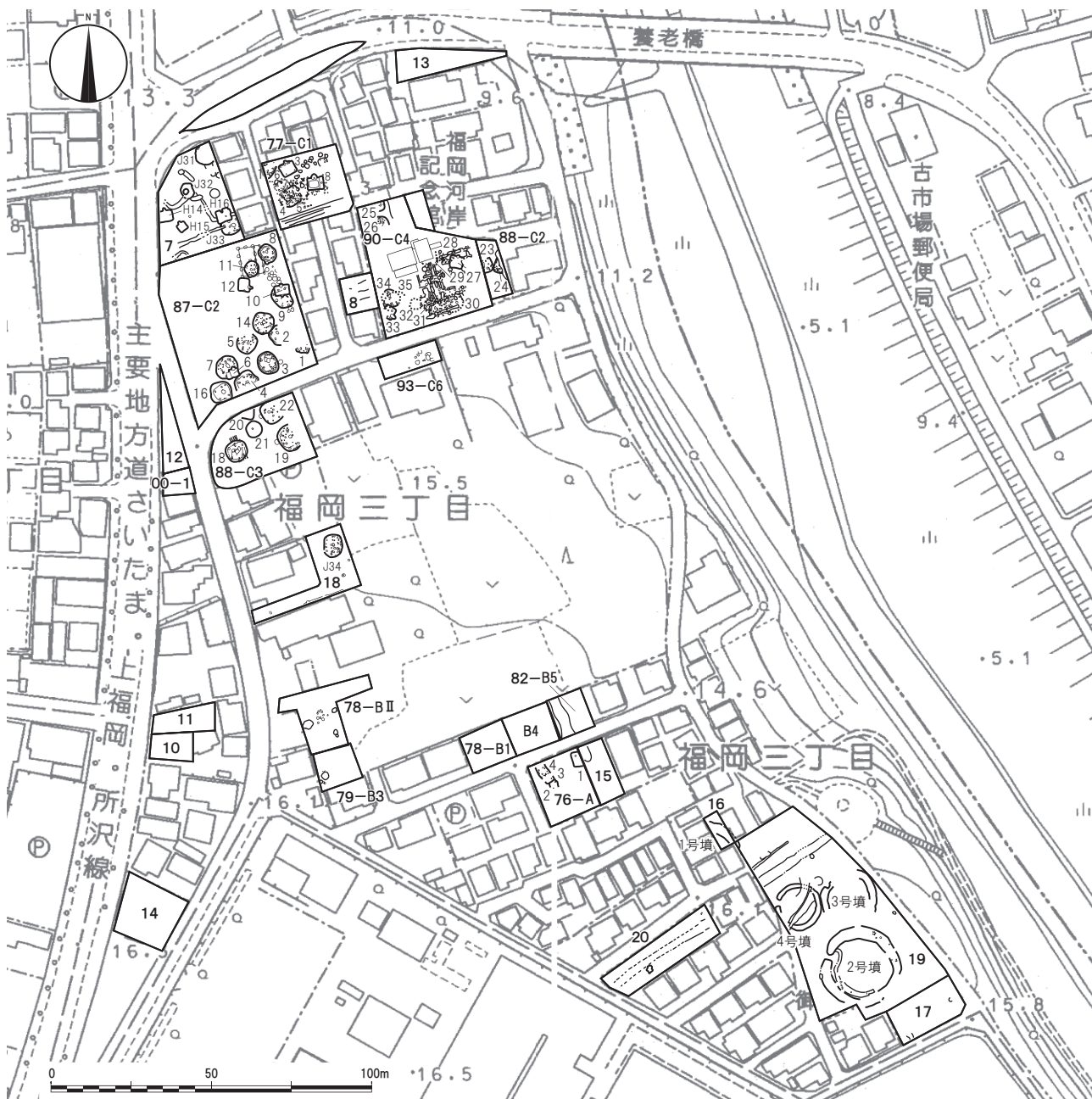
地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
A-1次	大字中福岡字遠見 1228～2021	1976. 9.11～16	306	個人住宅	古墳住居跡1、竪穴状遺構3、縄文土器	上福岡市遺跡調査報告書
C-1次	大字中福岡字清見 1480	1977. 8. 2～27	1,794	宅地造成	縄文住居跡5、奈良平安住居跡2、竪穴状遺構、土坑、炉跡	ハケ遺跡調査会 ハケ遺跡C地区
B-1次	中福岡 1228-40	1978. 8.28～9.10	165	個人住宅	遺構なし、縄文中期土器片	埋蔵文化財の調査(Ⅰ)
B-2次	中福岡 1181- 2	1978. 9.11～25	360	貸家建設	土坑4、炉跡1、土器	埋蔵文化財の調査(Ⅰ)
B-3次	中福岡 1228-37	1979. 7.20～31	166		土坑3、縄文土器	埋蔵文化財の調査(Ⅱ)
B-5次	大字中福岡字遠見 1228-46	1982. 5.10～17	165		溝1、縄文中期土器	埋蔵文化財の調査(Ⅴ)
C-2次	福岡 3-2068- 1・2	1987. 4.16～5.29	1,900	倉庫付住宅改築	縄文中期住居跡11、奈良平安住居4、掘立1	埋蔵文化財の調査(Ⅹ)
C-3次	福岡 2- 2- 1	1988. 8.15～20	627	駐車場	縄文中期住居跡4、平安住居跡2	埋蔵文化財の調査(Ⅺ)
C-試	福岡 3- 4- 2	1988.10.24～28	60	擁壁改修工事	縄文前期住居跡1	埋蔵文化財の調査(Ⅺ)
C-4次	旧福田屋敷地内	1990. 6.20～9. 6 H 3. 1月末～継続調査予定	500		旧福田屋柱礎石跡、鍛冶屋建物跡、(礎石・火処3・物置跡・粘土貼りつけ円形小竪穴)・江戸前期～中期長方形土坑12・溝1・平安住居跡3・縄文中期住居跡2、縄文後・晩期住居跡3	2年度教育要覧市史資料編
C-6次	福岡 3-1189、2065- 2	1993. 5. 6～18	142	個人住宅	縄文中期土坑6	埋蔵文化財の調査(Ⅺ)
C-4次	福岡 3-2069- 1の一部	1994. 6.10～1.31	54	河岸記念館管理棟・庭造成工事	縄文中期住居跡5、土坑30	埋蔵文化財の調査(Ⅺ)
C-試	福岡 3-1884- 8	2000. 1.26	100	個人住宅	遺構遺物なし	埋蔵文化財の調査(Ⅺ)
C-7次	福岡 3- 2	(2006. 7.10～22)	666	宅地造成	縄文・奈良平安遺構検出	市内遺跡群 3
C区 8	福岡 3-2069- 9	(2009.3.17)	99	個人住宅	住居跡確認	市内遺跡群 6
C区 9	福岡 3-1257- 7、1259- 1	(2010. 2. 2～4)	120	個人住宅	土坑1、風倒木1	市内遺跡群 8
10	福岡 3-1363-14	(2011. 4.22)	122	個人住宅	時期不明溝1	市内遺跡群 14
11	福岡 3-1363-11	(2011. 4.21・22)	158	分譲住宅	縄文時代屋外埋壘1、土器	市内遺跡群 14
12	福岡 3-1472- 1	(2012. 9.24)	122	個人住宅	ビット1、土器	市内遺跡群 15
13	福岡 3-1484- 1	(2013.10. 2・3)	183	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡群 18
14	福岡 3-1363-15	(2013.11.22)	144	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡群 18
15	福岡 3-1228-19	(2014. 4. 8・9)	184	共同住宅	遺構遺物なし	市内遺跡群 20
16	福岡 3-1254- 7・14・17	(2014. 8.11～9. 2) 9.3～9	68	分譲住宅	古墳1基、人物・円筒埴輪等、縄文土器	市内遺跡群 21
17	福岡 3-1219- 1・2	(2014. 9.26～30)	99	個人住宅	現代のゴミ穴1、近世～近代陶磁器、ガラス製品	市内遺跡群 20
18	福岡 3-1182、2066- 5	(2014.12. 4～10) 2015. 1. 6～16	511	個人住宅	縄文時代中期住居跡1、炉4、土坑2、溝2、縄文土器	市内遺跡群 16
19	福岡 3-1222- 1、1223～1225、1255	(2015. 3.17～5.11・10.13) 6. 2～9.19	2,297	宅地造成	古墳4、土坑7、ビット多数、堀跡1、溝4、縄文土器、土師器、埴輪、石器、銅貨	市内遺跡群 21
20	福岡 3-1252- 1	(2015.10.14～16) 2015.10.29・30	375	分譲住宅	古代以降の堀跡1、土坑1、ビット1、縄文土器、埴輪、土師器、須恵器、火工窯境界杭	市内遺跡群 21
21	福岡 3-1193- 4・15、2069-10	(2016. 1. 5)	101	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
22	福岡 3-2061の一部	(2016.12.26～2017.1.19) 2017. 1.25～2. 8	249	はけ自治会集会施設	古代住居跡1 (H 18)、土坑13、ビット13、縄文土器、土師器	未報告
23	福岡 3-1183- 1の一部	(2017.7.18)	137	個人住宅	ビット、縄文土器片	未報告
24	福岡 3-1178- 1、1179- 1、1180- 1、1181- 1、2066- 2、2067	(2017. 7.19～27) 2017. 7.28～8. 7	1,702	宅地造成	縄文時代住居跡1、竪穴状遺構1、土坑1、時期不明集石土坑1、ビット12	未報告

第3表 ハケ遺跡縄文時代住居跡一覧表

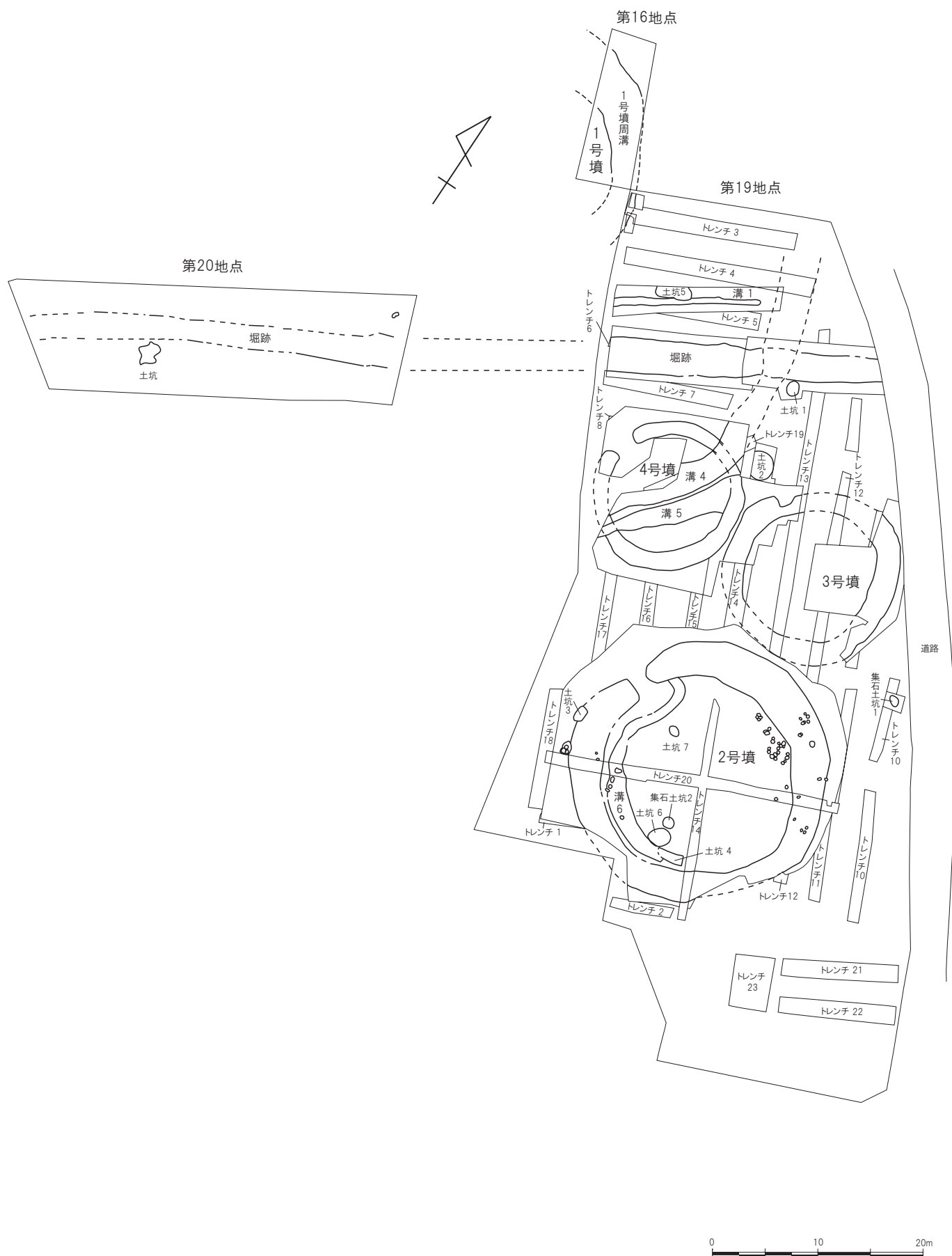
住居 番号	調査 年度	調査名	調査率	平面形 ()は推定	規模	炉			埋壘	周溝	主軸方位	時 期	備 考	文 献
						地床	炉体	石囲						
1	1977	C地区1号住居	1/4	(円形)	(600)			○				加曽利EⅡ		ハケ遺跡C地区
2	〃	C地区4号住居	完掘	楕円形	(600)	○						加曽利EⅠ		〃
3	〃	C地区5号住居	完掘	(方形)	400×500	○						諸磯		〃
4	〃	C地区6号住居	(完掘)			○						加曽利EⅢ	7住と重複	〃
5	〃	C地区7号住居					○	○				加曽利EⅠ		〃
6	1987	C地区2次1号住居	1/3						○			加曽利EⅠ		埋蔵文化財の調査Ⅹ
7	〃	C地区2次2号住居	西1/2	隅丸台形				○		○		加曽利EⅠ	連弧文土器出土	〃
8	〃	C地区2次3号住居	完掘	楕円形	720×600			(○)		○		加曽利EⅡ	連弧文、曾利系多い	〃
9	〃	C地区2次4号住居	北1/2					○				加曽利EⅡ		〃
10	〃	C地区2次5号住居	ほぼ完掘	円形	620	○						加曽利EⅡ		〃
11	〃	C地区2次7号住居	完掘	円形	700			○				加曽利EⅡ		〃
12	〃	C地区2次8号住居	完掘	円形						○		加曽利EⅠ	2軒の住居の重複	〃
13	〃	C地区2次9号住居	完掘	方形	(720)	○			○	○		加曽利EⅡ	10住と重複	〃
14	〃	C地区2次11号住居	完掘	円形	450×400	○						加曽利EⅡ		〃
15	〃	C地区2次14号住居	完掘	円形	660×640		○		○	○		加曽利EⅡ	3度建替え	〃
16	〃	C地区2次16号住居	完掘	隅丸台形	670×650	○			○	○		加曽利EⅡ		〃
17	1988	C地区3次18号住居	完掘	円形	650				○	2		加曽利EⅡ	17住と重複	〃
18	〃	C地区3次19号住居	西2/3	円形	800と500			○		○		加曽利EⅡ	2軒の住居の重複	〃
19	〃	C地区3次21号住居	完掘	円形	460～480				○			加曽利EⅠ	滑石製垂飾品	〃
20	〃	C地区3次22号住居	西4/5	不整円形	700							加曽利EⅡ		〃
21	1990	C地区4次23号住居	1/4	(方形)								安行1	床面から土偶	市史資料編
22	〃	C地区4次24号住居	西側未調査	楕円形										〃
23	〃	C地区4次25号住居	南東隅1/4	(円形)	500							加曽利EⅡ		〃
24	〃	C地区4次26号住居	北東隅1/4	(楕円形)	600							加曽利EⅢ古		〃
25	〃	C地区4次28号住居	土器片が多量に出土したため住居とした									加曽利EⅢ		〃
26	〃	C地区4次29号住居							両耳壺			加曽利EⅢ古		〃
27	〃	C地区4次30号住居	土器片が多量に出土したため住居とした									称名寺～堀之内		〃
28	〃	C地区4次31号住居	土器片が多量に出土したため住居とした									堀之内		〃
29	〃	C地区4次34号住居	一部	楕円形	560					○		加曽利EⅠ		〃
30	〃	C地区4次35号住居	一部	(円形)	(8m×7m)	○						加曽利EⅢ		〃
31	2013	7地点J 31号住居	1/0	楕円形	690×550	○				○		勝坂～加曽利EⅠ	H 17住、集石土坑3・4と重複	市内遺跡群 13
32	〃	7地点J 32号住居		円形	480×408	○						勝坂Ⅱ		〃
33	〃	7地点J 33号住居	90%		570×500	○						加曽利EⅡ	H 16住、集石土坑1、溝2と重複	〃
34	2014	18地点J 34号住居	完掘	楕円形	726×580	○	4			○	2	加曽利EⅡ～Ⅲ		市内遺跡群 16

第4表 ハケ遺跡古代住居跡一覧表

住居 番号	調査 年度	調査名	調査率	平面形 ()は推定	規 模	カマド	周溝	主軸方位	時 期	備 考	文 献
						カマドK	設置壁				
1	1976	A地区 LN01	1/2	隅丸方形	440 × (280)	K	北	○	鬼高		上福岡市遺跡調査報告書
2	"	C地区 3号住	完掘	長方形	470 × 480	K	北	○	8 C 3四半期		"
3	"	C地区 8号住	完掘	長方形	560 × 388 × 44	K	北	○	8 C 4四半期		"
4	"	C地区 2次 6号住	完掘	方形	300 × 280	K	北		国分		"
5	"	C地区 2次 10号住	完掘	長方形	450 × 300	K	北	○	8 C 末		"
6	"	C地区 2次 12号住	完掘	長方形	400 × 340	K	南東	○	9 C 後半		"
7	"	C地区 2次 15号住	南東 1/4					○	9 C 後半		"
8	"	" 2次掘立柱建物	桁4間×梁2間		870 × 470				8 C 中葉		"
9	1988	C地区 3次 17号住	完掘	長方形	350 × 290	K	北東	○	10 C 初頭		埋蔵文化財の調査 11 と市史資料編
10	"	C地区 3次 20号住	南東 1/6						8 C 3四半期		"
11	1990	C地区 4次 27号住	完掘	方形	400 × 380		北東	○	10 C 初頭		"
12	"	C地区 4次 32号住	カマドの痕跡が確認されたため住居とした						10 C 初頭		"
13	"	C地区 4次 33号住	ほぼ完掘	方形	320 × 340			○	8 C 3四半期	鍔帯金具出土	"
14	2013	第7地点 H 14号住居		長方形	410 × 340	K	北	○	8 C 中頃		市内遺跡群 13
15	"	第7地点 H 15号住居		長方形	290 × 275	K	北		9 C か		"
16	"	第7地点 H 16号住居		不整形	395 × 468	K	北		8 C 後半		"
17	"	第7地点 H 17号住居		不明	(300) × 140				8 C 前～中頃か		"
18	2017	第22地点 H 18号住居									未報告



第4図 ハケ遺跡遺構分布図 (1/2,000)



第5図 ハケ遺跡第16・19・20地点遺構配置図(1/500)

第 5 章 ハケ遺跡第 20 地点

I 調査に至る経過と概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2015 年 9 月 15 日付で「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南側に位置する。原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を行った。

試掘調査は 2015 年 10 月 14～16 日まで行った。幅約 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後、人力による調査を行ったところ、古代以降の堀跡、土坑、ピットを検出した。現地表面から遺構確認面までの深さは 30～40 cm で遺跡への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、原因者負担による本調査を行った。

本調査は 10 月 29・30 日で実施した。本調査にあたって、試掘調査で確認した堀跡は第 19 地点から直線的に続くもので、これまでの調査で遺物の出土がないため、開発建物の基礎部分についてトレンチ 3～8 の 6 本を設定して調査を行った。トレンチ 8 については堀の走行方向を確認するため、建物基礎には当たらないがトレンチを設定し、掘削は行わず遺構確認に留めた。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったう

えて埋戻し、本調査を終了した。なお遺構平面図、全体図の作成には平板測量を用いた。試掘調査及び本調査では旧石器時代の確認調査は行っていない。

II 遺構と遺物

試掘調査と本調査で検出した遺構は古代以降の土坑 1 基、ピット 1 基、堀跡である。遺物は土坑と堀跡覆土及び遺構外出土である。

①土坑

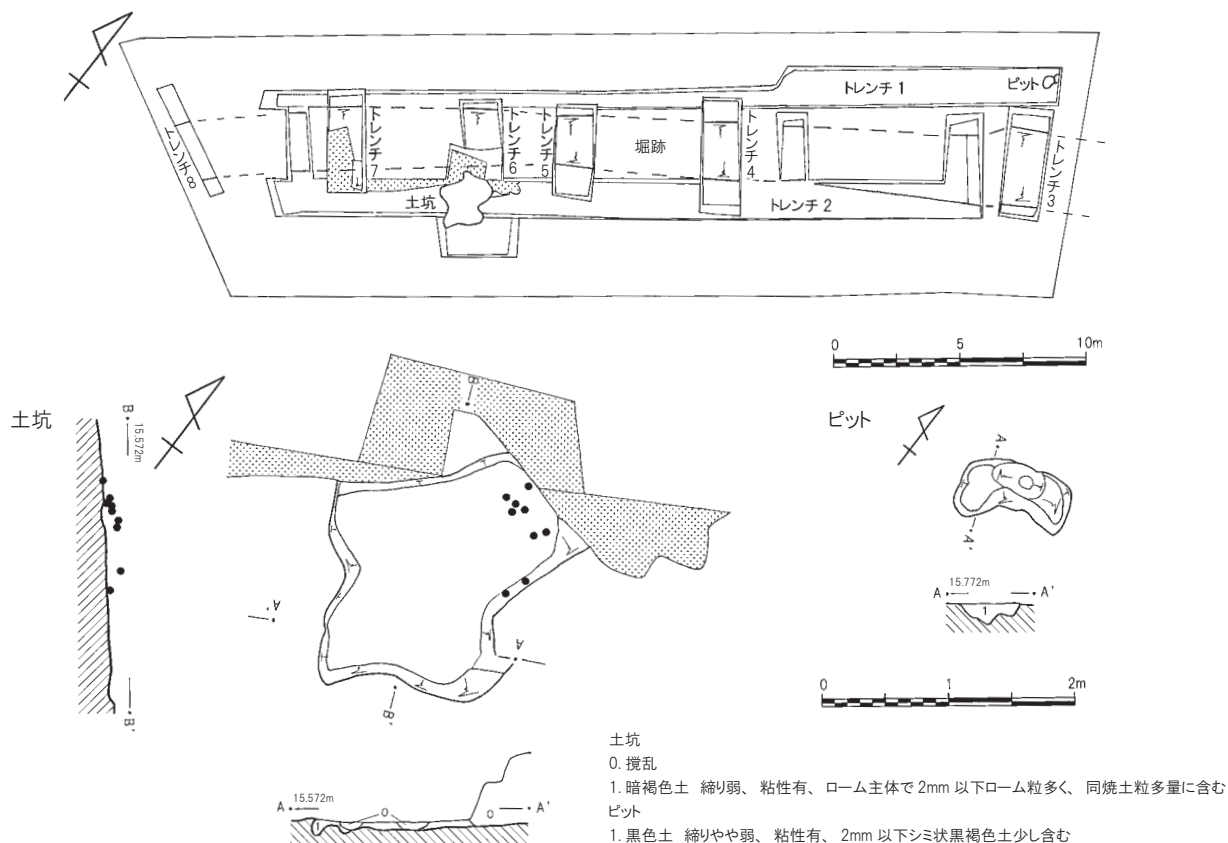
調査区中央やや南西寄りに位置する。平面形状は不整形で、北側を攪乱で壊されている。上幅 (235) × 200 cm、下幅 (225) × 165 cm で、深さ 10 cm と非常に浅い。遺物は北側上層に集中する。

②ピット

調査区北東隅に位置する。平面形状は不整形で、上幅 90 × 50 cm、下幅 75 × 40 cm、深さ 20 cm である。出土遺物はない。

③堀跡

調査区中央を東西方向に走行する。断面は薬研堀で、トレンチ 6、7 において南側が攪乱によって壊さ



第 52 図 ハケ遺跡第 20 地点遺構配置図 (1/300)、土坑遺物出土状況・ピット (1/60)

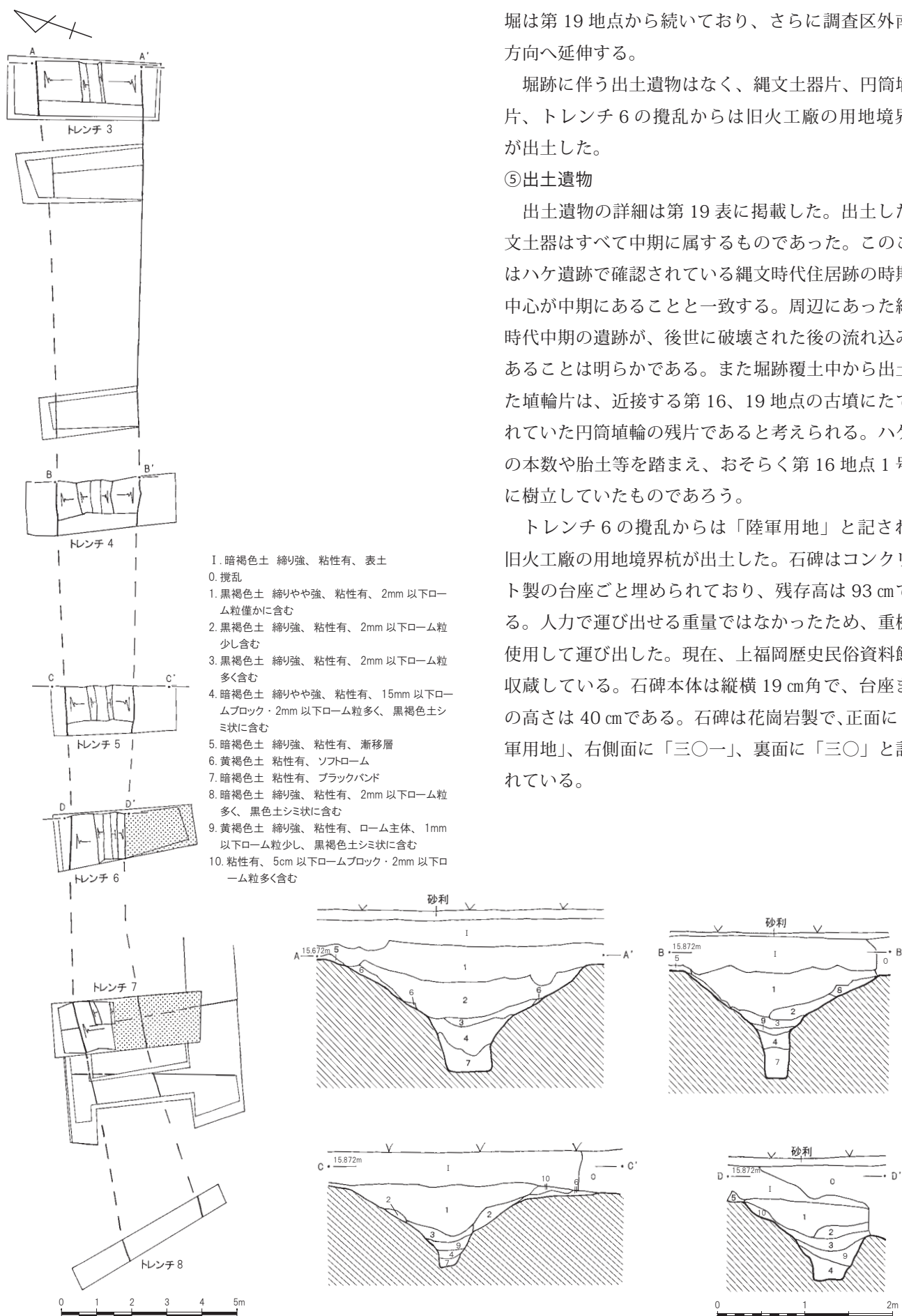
れている。各トレンチで確認した堀の規模は上幅 200 ~ 270 cm、下幅 20 ~ 50 cm、深さ 90 ~ 120 cm である。堀は第 19 地点から続いており、さらに調査区外南西方向へ延伸する。

堀跡に伴う出土遺物はなく、縄文土器片、円筒埴輪片、トレンチ 6 の攪乱からは旧火工廠の用地境界杭が出土した。

⑤出土遺物

出土遺物の詳細は第 19 表に掲載した。出土した縄文土器はすべて中期に属するものであった。このことはハケ遺跡で確認されている縄文時代住居跡の時期の中心が中期にあることと一致する。周辺にあった縄文時代中期の遺跡が、後世に破壊された後の流れ込みであることは明らかである。また堀跡覆土中から出土した埴輪片は、近接する第 16、19 地点の古墳にたてられていた円筒埴輪の残片であると考えられる。ハケ目の本数や胎土等を踏まえ、おそらく第 16 地点 1 号墳に樹立していたものであろう。

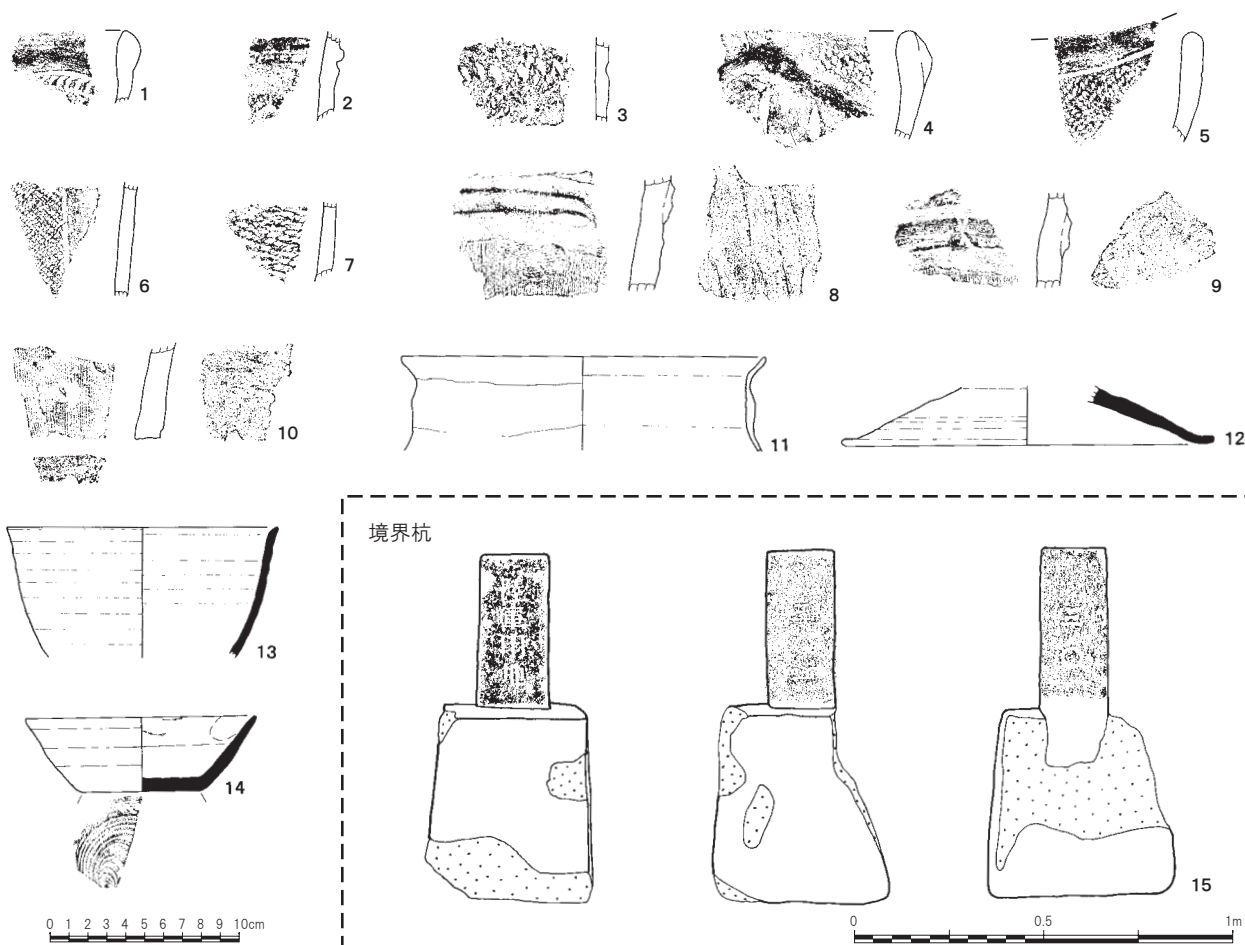
トレンチ 6 の攪乱からは「陸軍用地」と記された旧火工廠の用地境界杭が出土した。石碑はコンクリート製の台座ごと埋められており、残存高は 93 cm である。人力で運び出せる重量ではなかったため、重機を使用して運び出した。現在、上福岡歴史民俗資料館に収蔵している。石碑本体は縦横 19 cm 角で、台座までの高さは 40 cm である。石碑は花崗岩製で、正面に「陸軍用地」、右側面に「三〇一」、裏面に「三〇」と記されている。



第 53 図 ハケ遺跡第 20 地点堀跡 (1/150)、土層 (1/60)

第 19 表 ハケ遺跡第 20 地点出土遺物観察表 (単位cm)

図版	番号	出土遺構	種別 / 器種	口径・ 長さ	器高・幅	底 径	技法・文様・備考等	推定産地	推定年代
第 54 図	1	遺構外	縄文土器 / 深鉢	—	—	—	口縁部 / 弧状の沈線間に爪形文	—	縄文時代中期 / 勝坂Ⅱ～Ⅲ
	2	遺構外	縄文土器 / 深鉢	—	—	—	胴上部 / 隆帯脇に角押文 / 胎土に金雲母、石英粒含む	—	縄文時代中期 / 阿玉台Ⅱ
	3	遺構外	縄文土器 / 深鉢	—	—	—	胴部 / 爪形文	—	縄文時代中期 / 阿玉台Ⅰ～Ⅱ
	4	遺構外	縄文土器 / 深鉢	—	—	—	口縁部 / 隆帯による半円上の区画、区画内横位 RL 縄文、沈線による懸垂文 2 条	—	縄文時代中期 / 加曽利 EⅣ
	5	遺構外	縄文土器 / 深鉢	—	—	—	波状口縁部 / 口縁に沿う細い沈線による区画、地紋横位 LR・RL 羽状縄文	—	縄文時代中期 / 加曽利 EⅣ
	6	遺構外	縄文土器 / 深鉢	—	—	—	胴部 / 縦位 LR 縄文、沈線による区画、沈線間磨り消し	—	縄文時代中期 / 加曽利 EⅢ～Ⅳ
	7	遺構外	縄文土器 / 深鉢	—	—	—	胴部 / 縦位無節 1 縄文	—	縄文時代中期 / 加曽利 E
	8	遺構外	埴輪 / 円筒体部	—	(5.0)	—	調整：内面 / ナデ、外面 / タテハケ・ナデ、焼成：普通、色調：7.5YR 7/6 橙色、胎土：白色粒子・黒色粒子・砂礫、砂礫を多く含む	—	古墳時代後期
	9	遺構外	埴輪 / 円筒体部	—	(6.0)	—	調整：内面 / ナデ、外面 / タテハケ・ナデ、焼成：良好、色調：5YR 6/8 橙色、胎土：白色粒子・黒色粒子・砂礫、砂礫を多く含む、ハケ目：18 本 / 2 cm	—	古墳時代後期
	10	遺構外	埴輪 / 円筒底部	—	(5.1)	—	調整：内面 / ナデ、外面 / タテハケ、焼成：良好、色調：2.5YR 5/6 明赤褐色、胎土：白色粒子・赤色粒子、ハケ目 16 本 / 2 cm	—	古墳時代後期
	11	土坑	土師器 / 甕	19.4	(5.0)	—	輪積み / 内外面ナデ / 厚さ：0.3～0.5 cm	—	9 c
	12	土坑	須恵器 / 蓋	19.7	(3.2)	—	轆轤成形 / 胎土：やや砂質、白色粒子含む	東金子窯	9 c 中～後半
	13	土坑	須恵器 / 椀	14.5	(6.9)	—	轆轤成形 / 胎土：砂質、小レキ、白色粒子含む	東金子窯	9 c 後半
	14	遺構外	須恵器 / 坏	12.3	3.9	6.4	轆轤成形、底部糸切離し / 胎土：精緻、硬質酸化炎焼成 / 口縁部内面に煤付着	東金子窯	Ⅶ期 / 9 c 中～後半



第 54 図 ハケ遺跡第 20 地点出土遺物 (1/4・1/20)

第6章 まとめ

今回のハケ遺跡第16・19・20地点の調査では、古墳4基をはじめとして、縄文時代集石土坑、古代堀、溝、土坑、ピット等多数の遺構が検出された。その中でも人物埴輪を伴う古墳の発見は市内初であった。最後に3地点を通して総括を行いたい。

なお、今回の調査で確認された4基の古墳の帰属時期や築造順序の考察に関して、土師器坏や埴輪等の時期を特定する出土遺物はあるものの、各古墳に共通する出土遺物がないため、それぞれの前後関係等が判然としない。そのため、今回は1号墳出土の埴輪と2、3号墳出土の坏の帰属年代から、各古墳の築造年代と築造順序を推定するにとどめる。

1. 出土遺物について

(1) 円筒埴輪について

今回の調査では1号墳と2号墳で円筒埴輪が出土しているが、どちらも周溝内からの出土であるため、樹立当時の状況を窺うことはできなかった。また2号墳は墳丘規模と比較しても1号墳より圧倒的に出土量が少ない。埴輪の樹立自体がなかった可能性も考えられる。またいずれも全体がわかるものは出土していないが、突帯の突出度からおおよその製作時期は限定できる。円筒埴輪の突帯は一般的に時代が新しくなるほど扁平傾向にあることが指摘されている。今回出土した円筒埴輪の中で突帯が残存しているものを対象に突帯扁平率を算出したところ、1号墳で平均0.38、2号墳で平均0.347であった。いずれも比較的扁平であることを示しており、両古墳とも少なくとも6世紀に入ってから製作されたものであると言えよう。

第4章Ⅱ遺構と遺物の中でも触れたが、今回出土した円筒埴輪片は大きく2種類に分けられる。即ち赤～赤褐色の色調を呈し、胎土に白色粒子を多量に含む一群(A類)と色調が橙色を呈し、比較的薄手のつくりで小礫をやや多く含む一群(B類)の2つであり、A類はその特徴から生出塚埴輪窯跡でつくられたものである。1号墳はA類をほとんど含まないが、2号墳はむしろA類が多く出土する。1号墳に樹立された埴輪には、生出塚産の埴輪を選択していないことを意味しており、2号墳もしくはその周辺に存在したと想定される古墳では、生出塚産の埴輪を選択し、樹立していたということになる。このことは、それぞれの古墳

の築造時期の差を示していると考えられる。生出塚埴輪窯跡は埼玉古墳群に樹立する埴輪を供給するために成立したもので、6世紀前半の二子山古墳・瓦塚古墳への供給を契機に規模が拡大する。中小規模の古墳へ供給されるようになるのはこれ以降であるので(城倉2011)、少なくとも2号墳から出土した埴輪に関しては6世紀前半以降と考えることができる。当然のことながら、何度も指摘しているようにこれは2号墳の築造時期とイコールではない。また、1号墳の周溝からA類の埴輪がまったくと言っていい程出土していないのは、1号墳が生出塚埴輪窯跡の規模拡大以前の築造である可能性が考えられよう。

(2) 形象埴輪について

1号墳周溝から出土した形象埴輪は掲載したもので27点、不掲載遺物も合わせると70点を超える。そのうちの大部分が人物埴輪の破片である。今回出土した分だけでも、少なくとも9体以上(男子4、女子4、不明1)の人物埴輪が樹立していたことがわかる。今回出土した人物埴輪の特徴として、以下の点が挙げられる。

○耳の表現として円形の粘土を貼り付け、中央を割り貫いて耳としている。

○耳飾りは、耳の下部に粘土紐を円形に貼り付けて耳環を表現する。女子埴輪はさらに耳の後ろ側に粘土紐を3本貼り付ける。

○目が切れ長で、口は比較的小さく穿孔されている。

○鼻孔を表現しない。

○腕のつくりが中実である。

○色調・胎土とも、円筒埴輪の分類におけるB類に近似する。

○肉眼で確認できるほどの量の白色針状物質(海綿骨針)は含まない。

ハケ遺跡出土の人物埴輪と形態的によく似た埴輪は、行田市瓦塚古墳、東松山市岩鼻遺跡5号古墳跡、同市杉の木遺跡毛塚28号墳、さいたま市稲荷塚古墳1号溝で確認できる。特に女子埴輪にみられる特徴的な耳飾りの表現方法は上記出土の埴輪に共通する。これらは城倉正祥氏の研究によって「プレ桜山」と呼称

される特徴的な一群である(城倉 2008、2011)。「プレ桜山」とは、東松山市に所在する桜山埴輪窯跡の前段階に位置づけられる資料群を意味する。桜山埴輪窯跡群の開業は6世紀前半以降であるため、その前段階である「プレ桜山」の一群は6世紀初頭～前半に位置づけられる。城倉氏が指摘する「プレ桜山」の埴輪の特徴として、①扉表現のある家、②波状線刻を有する3条4段の円筒、③人物埴輪の木芯中空技法、④弓を貼り付けた板を持った人物、⑤足にトゲの表現がある等を挙げているが、今回出土した埴輪の中で①、②、④、⑤は出土していないため比較検討ができない。③に関しては、前述の出土埴輪の特徴でも列記したが、1号埴出土人物埴輪で腕が確認できた5点のうち、そのいずれも木芯中空技法ではなく、棒状の粘土を使用した中実のつくりであった。「プレ桜山」の特徴である人物腕部の木芯中空技法という点で、ハケ遺跡の人物埴輪は当てはまらない。しかし形態的特徴に関しては他のいわゆる「プレ桜山」に分類される埴輪と近似している。形態的特徴を鑑みれば、1号埴の人物埴輪も「プレ桜山」であることは疑う余地はない。

今回1号埴から出土した埴輪だけでは、形態的特徴と技術的特徴の差を議論するには資料が圧倒的に少ない。今後の調査で1号埴の規模等が明確になれば、この差異についても明らかになるものと思われる。

(3) 土師器環について

今回の調査で2・3号埴から出土した土師器環は2号埴から3点、3号埴から6点出土した。すべて口縁がS字状に屈曲し外反するいわゆる「比企型環」に分類されるものである。「比企型環」については、水口由紀子氏(水口 1989)や尾形則敏氏(尾形 1999、2000)に編年等詳細に記されている。今回は両者の編年を参考にして、2・3号埴出土環について考察する。

2号埴出土の環は以下のような特徴が挙げられる。

- 径が12.0 cmに満たない。
- 半球形の体部と短く外反する口縁を有する。
- ヘラケズリ後に丁寧にナデを施して調整を行う。

以上の特徴は「比企型環」初現期に共通するものである。実年代を与えるとすれば、5世紀末～6世紀初頭となろう。また、「比企型環」の特徴の一つに内外面に施される赤彩が挙げられる。2号埴出土環のうち2

点は底部の大部分に黒斑がみられる。特に第27図2は黒斑の後に赤彩を施している。焼成後に彩色を施していると考えられる。

次に3号埴出土の環6点であるが、径と器高から以下の2つに分類できる。

- I. 径が14.2～14.4 cm、器高が4.5～5.0 cmで、体部に稜を持ち、外面の赤彩範囲が狭まる。
- II. 径が14.0 cmに満たず、器高も4.0 cmとIと比べて一回り小さい。Iほど体部に稜は見られないが、口縁部内面にわずかに沈線が施される。

以上に挙げた特徴の中で稜を持つ体部と口縁部内面に見られる沈線は、どちらも定型化比企型環に該当するものである。尾形氏は比企型環の定型化の条件として①口唇部内面に沈線がまわる、②丸みをもつ体部から稜をもつ体部に変化する、③赤彩の範囲は内面及び口縁部外面に定着する、④外面底部にヘラ削り痕を顕著に残す土器が主体となる、⑤口径は13 cm前後を基本とする、という5点を挙げている(尾形 1999)。今回3号埴から出土した環は①～④の条件をI・IIのどちらかが満たしているが、⑤に関してはいずれにも当てはまらない。これは定型化へ向けての過渡期に位置する環であったことを示していると考えられる。比企型環の定型化は7世紀初頭であるので、3号埴出土の環はいずれもその直前、6世紀後半～末に帰属するものと推測できる。

2. 古墳群の築造順序と年代観

以上のように各古墳の出土遺物の年代について考察したが、まとめると以下ようになる。

- 1号埴出土の円筒埴輪は6世紀代につくられたものである。
- 1号埴出土の人物埴輪は形態的特徴から「プレ桜山」と称される一群で、6世紀前半に帰属するものである。
- 2号埴出土の土師器環は、5世紀末～6世紀初頭に位置づけられる。
- 3号埴出土の土師器環は、6世紀後半～末に位置づけられる。

以上のことから現段階で考え得るハケ遺跡古墳群の築造順序は、

2号墳(6世紀初頭)→1号墳(6世紀前半)→3・4号墳(6世紀後半)

ということになる。当然のことながら、1号墳と2・3号墳は年代比定に使用している遺物が異なるため、あくまでも可能性の域を出ない。特に1号墳に関しては、今後の調査で埴輪以外の遺物が出土する可能性が考えられる。今後の調査に期待する。

3. 古墳時代のハケ遺跡とその周辺

今回の調査でハケ遺跡では初めて埴輪を伴う古墳を確認したが、周辺では第19地点の約400m南に4世紀前半の権現山古墳群が存在する。特に権現山2号墳は折り返し口縁壺を有するこの地域で最古の前方後方墳である。市内の新河岸川左岸の古墳築造の端緒であるといえる。その後、古墳の築造域は第19地点の約300m南、権現山古墳群の約100m北側に位置する権現山北古墳群に展開する。権現山北古墳群は1号墳出土の須恵器甕と埴輪片から5世紀代にその中心があったものと想定される。そして今回の6世紀代に展開したハケ古墳群へとつながるのである。権現山古墳群からハケ遺跡へと古墳時代を通じて連綿と新河岸川右岸に北へと墓域を拡大してきたことが、今回の調査で明らかとなったといえる。

また今回の調査では明確に答えを出すことができなかった疑問点について示しておく。それは、2号墳の埴輪樹立の有無である。その出土量から樹立がなかった可能性が高いことについては再三述べてきたところではあるが、何故埴輪が立てられなかったのかという理由に関しては言及できなかった。2号墳より遡る権現山北古墳群で埴輪が出土している以上、古墳に埴輪を立て並べるという行為自体は認識としてあったはずである。あえてかどうかは定かではないが、埴輪を樹立しないことの意義については今後の課題としたい。

4. 第20地点出土「陸軍用地」境界杭について

最後に第20地点の攪乱中から出土した境界杭について、事実から想定し得る所在地について考える。

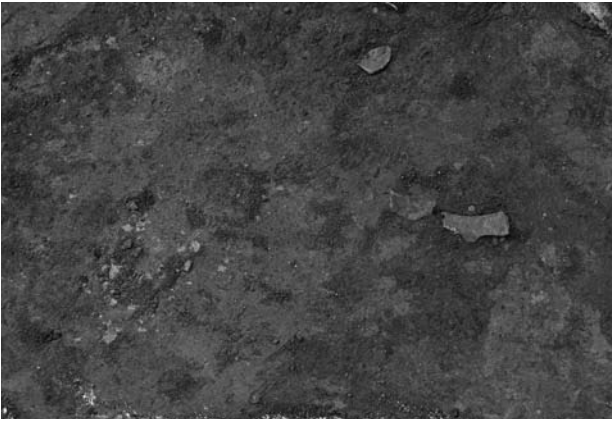
今回発見された境界杭は19cm角のもので、正面に「陸軍用地」、その右側面に「三〇一」、裏側に「三〇」と刻まれているものである。もともとは造兵廠の境界に設置されていたものであるが、戦後の開発等でその多くは撤去されてしまったため、原位置で残っているものは少ない。現在、19cm角のもので所在のわかって

ているものは20基あるが、そのうち原位置のわかるものは2基のみである。『市史調査報告書第15集 旧陸軍造兵廠福岡工場(川越製造所)』によれば、境界杭に記された数字のうち、「一七」～「三一」は滝の東門近くにあったとする。対して今回の調査地点であるハケ地区には「三」と「五」という境界杭が建てられていたようである。ハケ地区に設置された境界杭が一桁であった可能性が考えられる。今回出土した境界杭は「三〇」「三〇一」であるから、ハケ地区に設置されたものではなく、もともとは東門近くにあったものであると推測できる。それが戦後、何らかの理由で第20地点に廃棄されたと考えられる。

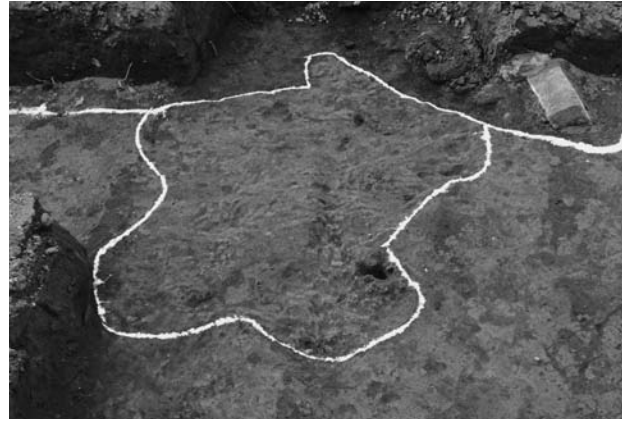
〈参考文献〉

- ・江原昌俊 1993 『岩鼻遺跡(第2次)』 東松山市教育委員会
- ・江原昌俊 2004 「東松山市桜山埴輪窯と製品の供給先」『埴輪研究会誌』第8号 埴輪研究会
- ・大谷徹 2006 『杉の木遺跡』 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- ・尾形則敏 1999 「いわゆる「比企型坏」の編年基準の要点—小地域を対象とした編年の確立に向けて—」『あらかわ』第2号 あらかわ考古談話会
- ・尾形則敏 2008 「古墳時代後期の土師器研究の再認識 —(仮称)「入間系土師器」の実態と生産地推定を例として—」『埼玉考古』第43号 埼玉考古学会
- ・上福岡市教育委員会 1998 『市史調査報告書第15集 旧陸軍造兵廠 福岡工場(川越製造所)』
- ・上福岡市教育委員会・上福岡市史編纂委員会 1999 『上福岡市史 資料編第1巻 自然史・考古』
- ・川越市立博物館 1996 『第9回企画展 古墳時代の川越』
- ・佐藤康二 2014 『史跡埼玉古墳群 奥の山古墳 発掘調査・保存整備事業報告書』 埼玉県立さきたま史跡の博物館
- ・笹森紀己子 1991 「大宮の古墳—側ヶ谷戸古墳群・植水古墳群の検討を中心に—」『大宮市立博物館研究紀要』第3号 大宮市立博物館
- ・城倉正祥 2009 『埴輪生産と地域社会』 学生社
- ・城倉正祥 2010 「生産地分析からみた北武蔵の埴輪生産」『考古学研究』第57巻第2号 考古学研究会
- ・城倉正祥 2011 『北武蔵の埴輪生産と埼玉古墳群』 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
- ・杉崎茂樹 1986 『埼玉古墳群発掘調査報告書 第四集 瓦塚古墳』 埼玉県教育委員会

- ・立木新一郎ほか 1987 『稲荷塚古墳周溝確認調査報告』 大宮市教育委員会
- ・高崎光司 1992 『新屋敷遺跡－B区－』 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- ・伝田郁夫・江原昌俊・城倉正祥 2010 「比企の埴輪」『埴輪研究会誌』第14号 埴輪研究会
- ・伝田郁夫・江原昌俊・城倉正祥 2011 「続比企の埴輪」『埴輪研究会誌』第15号 埴輪研究会
- ・昼間孝志・大谷徹 1998 『新屋敷遺跡D区』 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- ・藤野一之 2012 『大河原遺跡2』 坂戸市教育委員会
- ・水口由紀子 1989 「いわゆる“比企型坏”の再検討」『東京考古』第7号 東京考古談話会
- ・山崎武 1981 『生出塚遺跡』 鴻巣市遺跡調査会
- ・山崎武・菅原龍彦 2005 『生出塚遺跡－35・39・45・46地点－』 鴻巣市遺跡調査会
- ・横川好富ほか 1982 『桜山窯跡群』 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- ・若松良一 1990 「造り出し出土の供献土器について」『調査研究報告』第3号 埼玉県立さきたま資料館
- ・若松良一・日高慎 1992 「形象埴輪の配置と復原される葬送儀礼（上）－埼玉瓦塚古墳を中心に－」『調査研究報告』第5号 埼玉県立さきたま資料館
- ・若松良一・日高慎 1993 「形象埴輪の配置と復原される葬送儀礼（中）－埼玉瓦塚古墳を中心に－」『調査研究報告』第5号 埼玉県立さきたま資料館
- ・若松良一・日高慎 1994 「形象埴輪の配置と復原される葬送儀礼（下）－埼玉瓦塚古墳を中心に－」『調査研究報告』第7号 埼玉県立さきたま資料館
- ・若松良一ほか 1992 『二子山古墳・瓦塚古墳』埼玉県教育委員会



ハケ遺跡第 20 地点土坑遺物出土状況



ハケ遺跡第 20 地点土坑



ハケ遺跡第 20 地点ピット完掘



ハケ遺跡第 20 地点堀跡



ハケ遺跡第 20 地点堀跡



ハケ遺跡第 20 地点トレンチ 1 堀跡



ハケ遺跡第 20 地点トレンチ 1 堀跡完掘



ハケ遺跡第 20 地点トレンチ 2 堀跡完掘



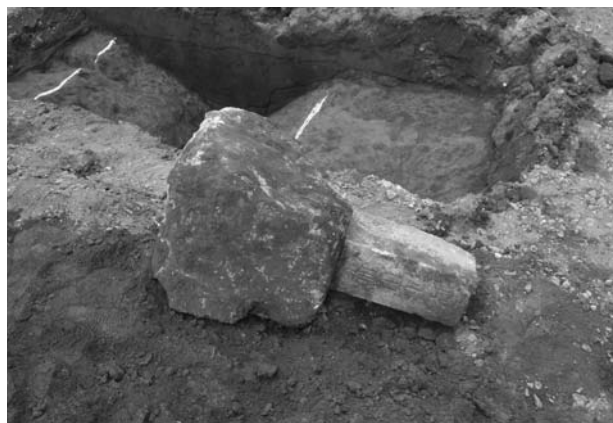
ハケ遺跡第 20 地点トレンチ 3 堀跡完掘



ハケ遺跡第 20 地点トレンチ 4 堀跡完掘



ハケ遺跡第 20 地点トレンチ 5 堀跡完掘



ハケ遺跡第 20 地点境界杭出土状況



ハケ遺跡第 20 地点境界杭出土状況



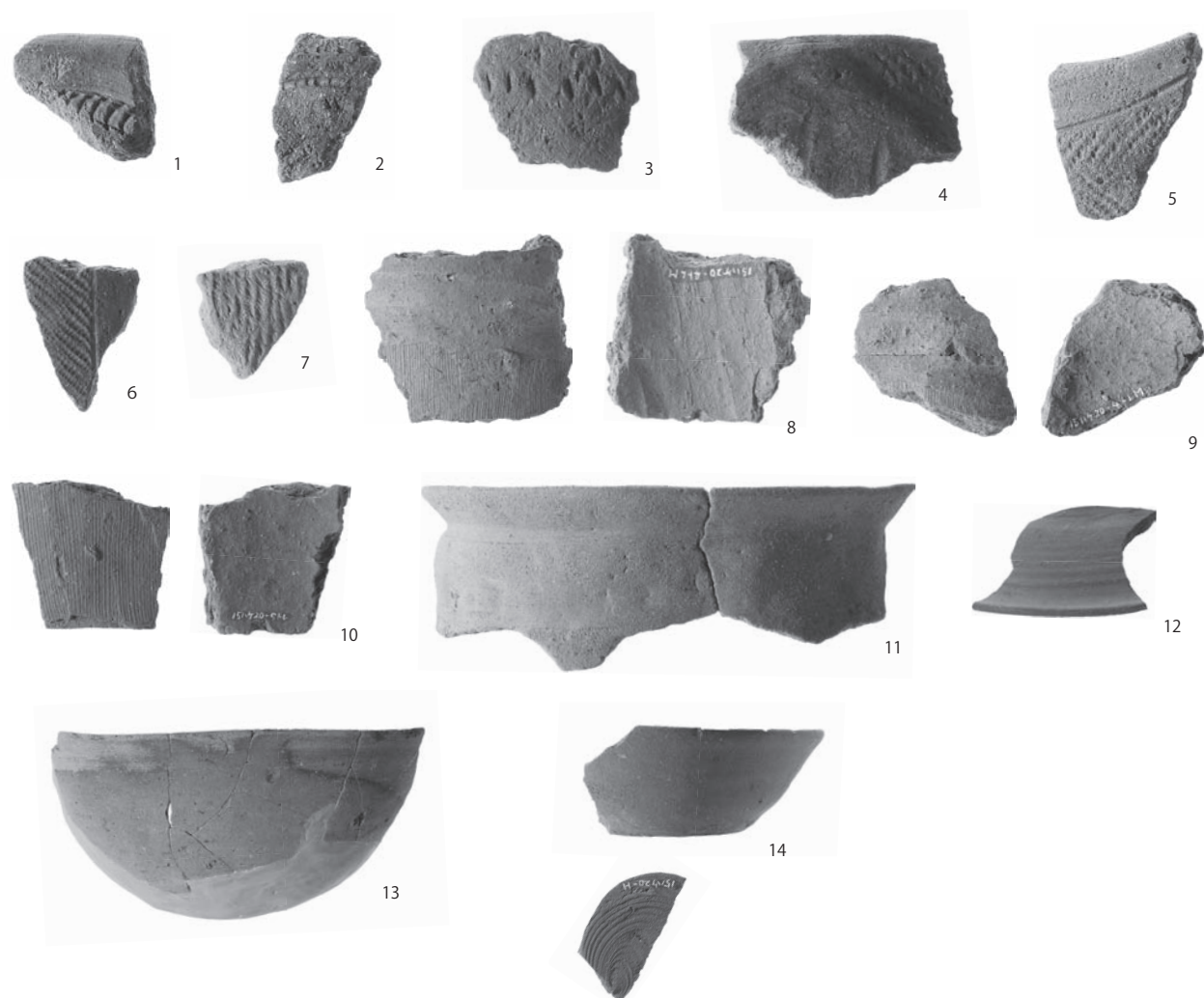
ハケ遺跡第 20 地点境界杭出土状況



ハケ遺跡第 20 地点境界杭



ハケ遺跡第 20 地点調査風景



ハケ遺跡第 20 地点出土遺物

報告書抄録

書名	市内遺跡群21		シリーズ名	ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第22集		
編集者	岡崎裕子		著者	岡崎裕子、鎌田翔		
編集機関	ふじみ野市教育委員会		所在地	〒356-8501 ふじみ野市福岡一丁目1番1号 TEL 049 (261) 2611		
発行日	2018年（平成30年）3月20日					
所収遺跡地点名 しょうしゅういせきちてんめい	所在地 しょうざいち	市町村コード	北緯	調査開始	調査面積 ㎡	調査原因
		遺跡コード	東経	調査終了		調査担当者
	種別/主な時代/主な遺構/主な遺物					
	特記事項					
ハケ遺跡第16地点 いせきだい	埼玉県ふじみ野市福岡三丁目 1254-7・14・17 ふくおか	112453	35° 53′ 01″	20140903	19	分譲住宅
		25-005	139° 31′ 26″	20140909		鍋島直久・越村篤
	古墳/古墳時代/古墳1基/円筒埴輪・形象埴輪・土師器・縄文土器片					
ハケ遺跡第19地点 いせきだい	埼玉県ふじみ野市福岡三丁目 1222-1、1223～1225、1255 ふくおか	112453	35° 53′ 00″	20150602	885	宅地造成
		25-005	139° 31′ 27″	20150919		鍋島直久・越村篤・岡崎裕子
	集落跡・古墳/縄文・古墳時代・中近世以降・近代/縄文時代：集石土坑2基・土坑2基・ピット26基、古墳時代：古墳4基・ピット15基、中近世以降：土坑5基・ピット9基・溝4条・堀跡1本、近代：礎跡建物跡／縄文土器・石器・埴輪・土師器・須恵器・石製品・陶磁器・瓦・銅貨・鉄製品（銃弾）					
ハケ遺跡第20地点 いせきだい	埼玉県ふじみ野市福岡三丁目 1252-1 ふくおか	112453	35° 53′ 00″	20151029	33	分譲住宅
		25-005	139° 31′ 25″	20151030		鍋島直久・岡崎裕子
	集落跡 / 中近世以降 / 土坑1基・ピット1基・堀跡1本 / 縄文土器・埴輪・土師器・須恵器・火工廠境界杭					